

令和6年度第1回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和6年8月27日（火）15時30分～17時20分

場所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	山田 貞己
教育委員	西堀 政幸	教育委員	宮内 慎也
教育委員	西川 紀栄	教育委員	佐藤 知佐子

【事務局】

学校教育課			
課長	平川 博巳	参事	宇仁 猛
学校教育係長	齋藤 祐樹	こども育成係長	澤地 彩
教育DXアドバイザー	吉田 裕哉		
生涯学習課			
課長	佐々木 豊仁	社会教育係長	坂部 琢
地域おこし協力隊隊員	須藤 航太		
企画課			
課長	鈴木 浩之	企画調整係長	鈴木 慈美
主事	藤原 佑紀子		

傍聴者： 報道関係4名

1 開会 15:30

2 あいさつ

・市長

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。グローバルCITYプロジェクトを5か年計画で進めている中で、今年は3年目になる。また、開港170周年という節目の年であり、170周年記念事業に力を注いでいる。まちづくり、ひとづくり、ことづくりの中で最も重点を置くべきことは子どもたちを主人公にすること。本日は経過報告とともに皆さまから色々なご意見をいただければと思う。

・教育長

学校は2学期が始まる。教育委員会、市長部局の連携で教育環境はもちろんのこと、子育て、高校卒業まで切れ目のない、つながる支援ができますように、総合教育会議にて市長とともに情報共有と情報交換をしていきたい。

3 報告事項

(1)市内小中学校の状況について（1学期の振り返り、いじめ等の状況）【報告】

・事務局（学校教育課参事）より資料1に基づき報告。

【質疑、意見等】

・教育長

市内においては、緊急事態で慌てる状況ではないと捉えている。参事の説明にもあったようにアンテナを色々な方向に向けながら察知する力をこれからは要求される。平穏な時こそアンテナが鈍くなるので、学校だけではなく、保護者や関係機関の力をお借りしたい。

・市長

南海トラフ地震臨時情報について、学校は休み中だったと思うが教育委員会としての取組等あったら説明いただきたい。

・学校教育課参事

小中学校は、夏休み中だったので児童、生徒、保護者に対して発信することはなかった。各学校の防災マニュアルについて、これを機に見直しをしたが、南海トラフ地震臨時情報に対応していない学校があったため、早急に見直しをするよう各学校へ依頼した。明後日の始業式から児童、生徒が不安にならぬように、また保護者に対して注意報が出た時の対応等をまとめて29日に周知するよう各学校にお願いしているところである。園や保育所、放課後児童クラブに関しては、再度避難経路を確認するなど、今まで以上に意識を高く持つように対応を取っている。

・市長

大勢の人が学校の体育館に避難せざるを得ない。実際に地震が起きた場合に猛暑の中でクーラーをどうするか、トイレをどうするか等、日頃から準備しておく必要がある。また、学校は教育の場であるが、非日常においては市民が来る場になる。そういう視点でこちらからお願いや検討を投げかけさせていただきたい。

・教育長

注意情報期間の対応は初めての経験であった。いい教訓になった。体育館のクーラーについては、こども議会でも提案があった。市民のための体育館という考えに転換していかないとなかなか進まないのではないか。

・佐藤委員

学校では子どもたち同士で防災について話し合いをしていて意識が高まっているのを感じる。先生方やそれ以外の関係団体との話し合いは足りないと思う。避難経路を確認したり、防災マニュアルの見直しも大事なことだが、話し合いながら課題を出すことが大事だと感じている。

・西川委員

マイタイムラインというものが話題になっていた。いざという時に慌てることが無いように避難に備えた行動をひとりひとりがしておくもので、各家庭でやると良いとテレビでやっていた。実践したところ家族で話しをするいい機会になった。

・教育長

こども育成係では下田保育所の避難をどうするか、下田小学校と相談しながら春日山への避難経過を確認した。園や保育所も意識を固めることができた。

- ・ 宮内委員

南海トラフ巨大地震がもし登下校時に起こった場合、バスなどの公共交通機関のマニュアルの確認をした。走行中に万が一地震がおきたらそのバスはどこへいくのか確認をしたところである。

- ・ 西堀委員

海辺の地域と山の地域とは対応が全然違う。実際に津波が来た場合は、皆が山の方面に避難してくる。元稲梓中学校の体育館は使用できるのか、また他に使える施設があるのか、もう少し確認する必要がある。体育館は劣化していると聞く。使用できるかどうかの話しを具体的にすべき。使用できる施設の設備を予め整備をしたほうが良いと思う。

- ・ 企画課長

教育、福祉等の関連部署と一緒に考えて行けるような環境づくりをしていきたい。

(2) 下田市における教育DXの推進について（経過報告）【報告】

- ・ 事務局（吉田教育DXアドバイザー）より資料2に基づき報告。

【質疑、意見等】

- ・ 佐藤委員

賀茂地区は単学級化が進んでいるため、先生方が授業に関する情報共有できるネットワークが欲しいと感じている。相談をしながら授業を進めることで授業改善にもつながる。教材研究等も含め、授業の組み立てにチャット等を活用してほしいと思う。また、効果があるかはまだ見えないところであるが、最終的に子どもたちの学力向上につながっていくのが大事なところだと思うので、どういう方法があるか考えていただけたらありがたい。

- ・ 吉田アドバイザー

先生と先生をつなぐ取り組みはしていきたい。南伊豆町では教員全体のチャットがあり、それにより南伊豆町内で起きていることがリアルタイムで共有されている。地域全体で情報共有していく文化があり、定着することで学校行事等の相談につながりやすい。他の学校との情報共有はできると思うので取り組んでいきたい。先生たちが大事にしている学びの質や主体的に取り組む力をICTやデジタルで補えたらと思う。

- ・ 市長

子どもたちが都会と比べて遜色がない教育を受けられるようにしたい。都会との格差をDXによって埋めることに期待する。色々な現場の声を吸い上げてもらい、それに伴う具体的な解決策を検討してもらい、実験的なプログラムをまた提示してもらうことを大いに期待したい。

- ・ 吉田アドバイザー

下田市と沼田市は以前より交流を続けていたが、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限で行き来などを取りやめた経過がある。沼田市からはつながり続けたいという声をいただいているため、リモートで話し合いをしたり、郷土を紹介し合えるような機会を設けたいと思っている。ニューポート市においても、訪問後につながり続けることがICT

の力で可能だと思う。

・教育長

先生方はDXに詳しい人材をとっても期待していた。まずは下田市の学校の実態を掴んでもらい、下田で何ができるか考えてもらいたい。また、沼田市、萩市からもつながりをと、言われているが1:1では、金銭的にも時間的にも制約がある。これこそDXを使い、つながりをつくってほしい。また、提携を結んでいる学校や企業についても交流授業や体験、情報共有をお願いしたい。

下田市のように4つの中学校が1つになることは全国的にも珍しい。この1中学校7小学校の構図を生かせないかと思っている。昨年度からスタートしたコミュニティスクールを一体化させるにはどういう手法があるのか楽しみにしている。下田市ならではの構図を大事にしたい。

・吉田アドバイザー

南伊豆町や西伊豆町などから赴任してきた先生方はそれぞれ実践されてきたことを教えてくれる。いろいろな制約によって、できていないこともあるので、そのリミッターを外し、賀茂地区の別の地域の事例を取り入れることができるようになれば、わくわくしながら学校現場に取り組めるのではないかと希望が見えている。一緒に作っていききたい。

(3) スポーツを生かしたまちづくりについて【報告】

- ・事務局（地域おこし協力隊須藤隊員）より資料3に基づき報告。

【質疑、意見等】

・市長

SS伊豆はサッカーチームか。幅広い団体なのか。

・須藤隊員

サッカーチームである。サッカーの中でもカテゴリーが分かれていて、熱海市にジュニアチーム、清水町と三島市でそれぞれ小中学生向けのスクールをしている。また障がい者のチームもある。

・教育長

須藤隊員の着任後、下田中学校サッカー部が伊豆半島で一番になり、県大会に進むことになった。技術が見れるだけでも大変な指導。どんなスポーツでも凄い選手の中で揉まれたり、プレーを見ることは子どもたちにとって得ることがとても多い。須藤隊員の培った技術を見ることだけでも凄い刺激となっている。ぜひ指導力を磨いていただき、末永く教えてもらいたい。今、部活動の地域移行が全国的にも大きな課題となっているが、下田市に来て部活動の地域移行についてどのように思われているか。

・須藤隊員

クラブとして、三島北中学校や伊豆総合高校の外部指導員をやっている。地域移行とまではいかないが、外部への指導についてはクラブ設立当初からやっていこうという動きがある。

下田に来て先生方の話を聞くなかで、自分やクラブで指導者を目指す人材を当てはめられれば、先生方の負担軽減につながると感じている。

・教育長

賀茂地区内での地域移行は現実的に難しい。賀茂地域だけの問題ではなく全国的に似たようなところはたくさんある。現状は外部の指導者に入ってもらい、地域とつながりながらやっていくのが良いと教育委員会でも話している。国は進める方向であるため、一緒に模索していくうえでいろいろな知恵をお借りしたい。一緒に知恵を絞っていきましょう。

・宮内委員

生徒たちは須藤隊員のプレーを見るだけでも違うと思う。ぜひこれからも指導をしてもらいたい。

・西川委員

子どもたちは一緒にやっていてどんな感じか。

・須藤隊員

目がキラキラがするとか尊敬の眼差しがあるというよりは、遠慮なく、ガツガツしていてとても良い。しっかり育てていければ皆、原石だと思っている。

(4)その他

- ・グローバルCITYプロジェクトの事業報告【報告】
- ・事務局（企画課長）より資料4・5・6に基づき報告。

【質疑、意見等】

・宮内委員

夏休みにロイロノートを使う宿題が出ている。ロイロノートを使うには自宅にwifi環境がないと使えない。学校から同じ端末を与えられても格差が出てしまう。端末配布はありがたいが、wifi環境が整っていない家庭もあるので、ポケットwifi等を貸出す予算を組んで提供してはどうか。

・学校教育係長

家にwifiがない児童、生徒へ、ルーター端末の貸出をしてる。中に入れるSIMカードの契約についてはソフトバンクで月700円程度で借りるので、別途、契約をお願いしている。ルーター端末の貸出は教育員会で行っており、昨年度は2名から申出があった。

・西川委員

子どもたちが生き生きと色々な体験ができるような環境が整っていたら良いなと思う機会になった。

・西堀委員

自分たちが出来ない技術を近くで見せてもらえるのは、良い指導者に巡り合えたということ。スポーツは、自分を鍛えるだけでなく、周りの人たちも幸せにしてくれる。そういう点からも児童、生徒にサッカーの高い技術を見せて、下田市からプロのサッカー選手が出るような、夢を持たせてもらいたいと思う。

・佐藤委員

グローバルCITYプロジェクトの資料を見て、学校教育課と生涯学習課だけでなく、市全体で取り組んでいるんだと解り、前進していると感じた。下田市が魅力的な夢のあるまちになってほしい。他にも外国人や移住者など人材活用していただき、魅力ある市にしていだけたらと思う。

・教育長

下田市にとって子どもは宝。子どもたちには、下田市にあるたくさんの宝を上手く体験したり、経験したり、見たり聞いたり、いじったりしながら勉強させるために、教育委員会としても市の皆さんと一緒にどんなことができるか考えていきたい。

グローバルCITYプロジェクトについては、学校も幼保も含めて教育委員会の方で、できる限り体験活動を通して頑張っている。170周年と一緒にしながら可能な範囲で力を注ぎたいと思う。

・市長

グローバルCITYプロジェクトにおいては、子どもに光を当てたい。子どもシンポジウムや中学生のパネルディスカッション等、子どもたちが主人公になるような舞台を今年度後半に盛り込むつもりである。資料にはまだ描いていないこともあるので、もう少し彩りを加えて、どうなるか示せるようにしたい。ぜひ期待して欲しい。

4 閉会 17:20